

「アマドコロの花」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

キジカクシ科(アスパラガス科)に属するアマドコロには、「ナルコユリ」という近縁種があって、見分けが非常に難しい。外見上はほとんど同じだが、私は茎の形状で見分けるようにしている。アマドコロの茎には「稜」と呼ばれる突起があるが、ナルコユリにはそれがない。従ってアマドコロは茎の断面が六角形だが、ナルコユリは円形である。

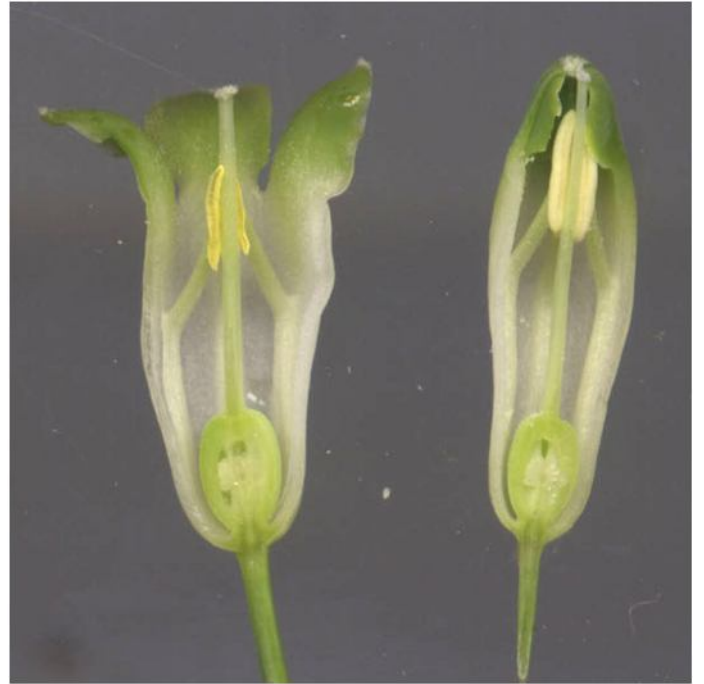


「アマドコロの茎」 稜があり、断面は六角形。



花の形も変わっている。葉脇から2~3個の花柄を出し、わざわざ下を向いて咲く。スズランやレンゲシヨウマと似ている。蜂が来る様子を見ていると、この形状は結構蜜を吸いやすいように見える。しかし、蜜

が下に落ちてしまうのでは・・・と心配になった。私は、花のいくつかを摘んで、中の構造を調べてみることにした。アブラナやアサガオの観察と同じである。



左が開花した花、右がつぼみの断面である。面白いのは、雄しべが花の基部(子房のわき)からではなく、花弁(或いはがく片)から直接伸びている点だ。



花を真下から見ると面白い。雌しべに向かって、雄しべに寄り添うように並んでいる。一つの植物をとことん観察し探究するのは、とても面白い。(つづく)